



# 開基120年記念特集

No.10

## 「北緯45度の大地に生きる動物たち」

撮影・文：富士元 寿彦氏

### 「北の森の珍獣 エゾクロテン」

新年になる頃、夏の間山奥の森や林で暮らしていたエゾクロテンが、低地や平地に下りてきます。雪が積もり、山の餌が不足するからです。秋にはサルナシ（コクワ）の実なども食べますが、主食はノネズミなどの小動物です。可愛い顔ですが気性は荒く、自分の体よりも大きい動物を捕食する時もあります。



陸の動物では世界一良質な毛皮なのが災いし、明治時代に乱獲されたため、絶滅が心配されるほどまで激減しました。一時期は増加したのですが、近年また減少しています。

## ほろのべの裏窓

■新年あけましておめでとうございます。今年「平成」の時代が幕を閉じ、そして新元号の時代が始まる大きな節目の年です。テレビでは早くも平成の特集が放送されていて、今の時期は、一年を振り返るとともに平成のできごとをしみじみ思い出し、家族や友人と思い出話に花を咲かせる機会も多いかと思えます。

■さて、そんな平成の最初の年（元年）の広報誌を見てみると、現在より一回り小さいB5版で、1月号のみ表紙と裏表紙がカラー、それ以外は白黒を基調とした作りで、タイトルは「広報幌延」でした。内容の方は、今の「わが家のエンジェル」や「情報インフォメーション」にあたる「こんには赤ちゃん」「お知らせ」のほかに、「暮らしのワンポイント」「歳時記」「四コマ漫画」といったユニークなコーナーが目立ちます。また、9月号にはほろのべ名林公園まつりの記事が掲載されているのですが、当時も皆さんこれまた凝った飯装をされていて、幌延町でずっと伝統芸能のように続いているのだなあと感じました。

■今年も、誌面作りでも何か新しいことに挑戦できればと思います。今年もご愛読をよろしくお願いいたします。

●広報へのご意見、ご要望をお寄せください●

総務財政課総務グループ

電話 5-1111 / 告知端末機 5-8811

## 十一月定例俳句会作品

幌延ほろのべ俳句会

歩を緩め落葉の語り耳澄ます  
 葉の落ちて半年ぶりの隣家の灯  
 望外の己が齢や落葉道  
 葉とす落葉に色のありやなし  
 落葉風老いゆく身には逆らえず  
 落葉掃くいよいよ骨の竹箒

富樫とも子  
 富樫 堅一  
 横山 貞雄  
 熊谷千恵子  
 佐藤 光朗  
 田中 徹男



男 1,185 (-1)

女 1,146 (-3)

計 2,331 (-4)

(平成30年11月末日現在)

※( )内は前月比

世帯数 1,241 (+2)

